

相談支援従事者研修（現任研修） シラバス

必須 項目	項目	内容
○	1 教科名	講義 1 障害福祉の動向
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・障害福祉の動向に関する講義（90 分）
○	3 関連する研修目標	(1)人材育成の手法として、実践研究及びスーパービジョンの理論と方法について理解すること。
○	4 担当講師名	林 健一 (さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール センター長)
○	5 担当講師略歴	平成 17 年度より相談支援事業に従事。 現在、さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール(札幌市基幹相談支援センター) センター長。
○	6 時間数	90 分
○	7 到達目標	障害者総合支援法等に関する最新の動向、障害児者及びその家族等の地域生活を支援していくに当たって、関連する制度等を理解する。
○	8 教科の概要	・障害者総合支援法等の改正等の状況やその他関連施策の最新の動向に関する講義を行う。 ・介護保険制度の対象となった障害者に適切な支援を提供するために必要な制度等の知識について講義を行う。
○	9 授業方法	講義
○	10 授業計画	1. 制度の変遷 2. 相談支援に関する動向 3. 令和6年度障害福祉サービス等報酬改定等について 4. 関連制度の動向 ①介護保険制度との関係について ②障害者支援における権利擁護と虐待防止に関わる法律等 ③その他関連施策の動き
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	講義 2 相談支援の基本姿勢
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談支援の基本姿勢及びケアマネジメントの展開に関する講義 (90 分)
○	3 関連する研修目標	(2) 自身の個別の相談支援実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。 (3) 自身のチームアプローチ(多職種連携)の実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。 (4) 自身の地域をつくる相談支援(コミュニティワーク)の実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。
○	4 担当講師名	門屋 充郎 (NPO 法人 十勝障がい者支援センター 理事長)
○	5 担当講師略歴	日本福祉大学卒業 精神保健福祉士 帯広協会病院、国立武蔵療養所、医療法人大江病院などの医療ソーシャルワーカー勤務を経て、帯広ケアセンター等で地域生活支援、相談支援に従事するとともに、全国の子精神保健福祉の充実に幅広く貢献。
○	6 時間数	90 分
○	7 到達目標	相談支援の基本姿勢等を再確認するとともに、個別の相談援助技術と地域援助技術の役割とそのつながりについて理解する。
○	8 教科の概要	・本人を中心とした支援における個別の相談支援の基本姿勢(①共生社会の実現(ノーマライゼーションからソーシャルインクルージョン)、②自立と社会参加、③当事者主体(本人中心支援)、意思決定の配慮、④地域における生活の個別支援、⑤エンパワメントなど)について再確認するとともに、ミクロ及びメゾレベルからマクロレベルに焦点を当てた視点等を含む地域を基盤としたソーシャルワークの理論と実践方法について講義を行う。 ・障害の理解に当たっては社会モデルを基本とすること、医学モデルの位置付けを実践の振り返りから確認する。
○	9 授業方法	講義
○	10 授業計画	1. 基本姿勢は歴史から学ぶ 2. 相談支援専門員という職業 3. 相談支援は生活支援
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	講義 3（実践報告） 相談支援及びケアマネジメントの展開
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談支援の基本姿勢及びケアマネジメントの展開に関する講義（90 分）
○	3 関連する研修目標	(2) 自身の個別の相談支援実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。 (3) 自身のチームアプローチ（多職種連携）の実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。 (4) 自身の地域をつくる相談支援（コミュニティワーク）の実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。
○	4 担当講師名	安井 博子 (かみかわ相談支援センターねっと) 実践報告 相談支援専門員 2 名
○	5 担当講師略歴	知的障がい者施設での指導員業務、精神科病院での精神保健福祉士業務等を経て、現在、かみかわ相談支援センターねっと 地域づくりコーディネーター・相談支援専門員として従事。 現在公職として、北海道相談支援専門員交流会 副会長。
○	6 時間数	90分
○	7 到達目標	実践報告をもとに、相談支援の基本姿勢等を再確認するとともに、個別の相談援助技術と地域援助技術の役割とそのつながりについて理解する。
○	8 教科の概要	・本人の生活の場で展開される援助、援助対象の拡大、予防的かつ積極的アプローチ、多職種連携（チームアプローチ）、ネットワークなどについて実践報告する。 ・協議会を活用した個別事例の支援からの地域課題の把握、課題の共有、課題解決に向けた地域づくりや資源開発のための協議、地域への働き掛けや政策的な提言に至る一連のプロセスと相談支援専門員の役割について実践報告する。
○	9 授業方法	実践報告
○	10 授業計画	1. 実践報告①（障害児相談支援の実践） 2. 実践報告②（指定特定相談支援事業等における実践） 3. 進行と報告者によるディスカッション（実践で大切にしていること）
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	講義4 人材育成の理論と方法
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・人材育成の手法に関する講義 (90 分)
○	3 関連する研修目標	(1)人材育成の手法として、実践研究及びスーパービジョンの理論と方法について理解すること。
○	4 担当講師名	大久保 薫(札幌学院大学) 実践報告 相談支援専門員 2 名
○	5 担当講師略歴	札幌市障がい者相談支援事業、札幌市基幹相談支援センター等に従事。 北海道自立支援協議会人材育成部会員。 主任相談支援専門員。
○	6 時間数	90分
○	7 到達目標	相談支援専門員の人材育成方法としての経験から学ぶ省察的思考の重要性について理解する。具体的な実施方法として実践研究及びスーパービジョンの理論と方法について理解する。
○	8 教科の概要	・実践に基づいた事例研究(実践研究)などによる経験から学ぶ省察的思考の重要性とその効果を高めるスーパービジョンの役割について講義を行う。 ・実践研究の理論と方法について理解するための講義を行う。実践研究の具体的な意義と目的として、①実践例を深める、②実践を追体験する、③援助の質を向上させる、④援助の原則を導き出す、⑤実践を評価する、⑥連携のための援助感や援助方針を形成する、⑦援助者を育てる、⑧組織を育てる等について解説する。また、実践研究の基本的プロセスと留意事項について解説する。 ・人材育成におけるスーパービジョンの理論と方法について理解するための講義を行う。(教育、支持、管理の各機能についての解説及び個別、グループ、ライブ、ピア、セルフ等の実施方法とその長所・短所等について解説する。)
○	9 授業方法	講義と実践報告
○	10 授業計画	1.【講義①】人材育成の必要性和方法(30分) ・対人援助職の人材育成 ・人材育成としての事例検討とスーパービジョン ・事例検討とは 2.【講義②】事例検討とスーパービジョン(30分) ・事例検討の実際(例) ・事例検討のポイント ・スーパービジョンについて 3.【実践報告】現場での取り組み(30分)
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習 1 自他尊重のコミュニケーション
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・個別相談支援とケアマネジメント（60 分） ・相談援助に求められるチームアプローチ（多職種連携）（60 分）
○	3 関連する研修目標	(2) 自身の個別の相談支援実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。 (3) 自身のチームアプローチ（多職種連携）の実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。
○	4 担当講師名	姉帯 美和子 (MIW 工房 コミュニケーション・ナビゲーター)
○	5 担当講師略歴	札幌学院大学卒業 一般企業で編集業に携わったのち、フリーランスでコミュニケーションナビゲーター、編集者として活躍 専門分野:コミュニケーション、アサーティブ
○	6 時間数	120分
○	7 到達目標	コミュニケーションの基本を振り返りながら、具体的な自他尊重のやりとりを理解する。
○	8 教科の概要	(1) アサーティブ（自他尊重）の基本を振り返る (2) 相手を意識して伝える、要点を絞って伝える (3) セルフケアを意識する
○	9 授業方法	ペアワークやグループワークによる演習
○	10 授業計画	1. 導入（ねらい説明） 2. グループ内自己紹介 3. 相手を意識して伝える、要点を絞って伝える 4. 自分の心とカラダをケアする方法を考える
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習2 事例検討導入演習
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・個別相談支援とケアマネジメント (60 分) ・相談援助に求められるチームアプローチ(多職種連携) (60 分) ・地域をつくる相談支援(コミュニティワーク)の実践 (50 分)
○	3 関連する研修目標	(2) 自身の個別の相談支援実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。 (3) 自身のチームアプローチ(多職種連携)の実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。 (4) 自身の地域をつくる相談支援(コミュニティワーク)の実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。
○	4 担当講師名	大久保 薫(札幌学院大学) 戸田 健一(障がい者相談支援センター 夢民) 日置 真世(NPO 法人北海道地域ケアマネジメントネットワーク) 小野 尚志(留萌圏域障がい者総合相談支援センターうえるデザイン) 林 健一(さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール) 浜尾 勇貴(根室圏域障がい者総合相談支援センター「あくせす根室」) 佐々木 雅代(根室圏域障がい者総合相談支援センター「あくせす根室」) 安井 博子(かみかわ相談支援センターねっと) 佐藤 直美(広域相談サロンくらしネットオホーツク) 長村 麻子(十勝障がい者総合相談支援センター) 平松 浩樹(自閉症者地域生活支援センターなないろ) 小野寺 拓(地域ぬくもりサポートセンター兼共同生活援助こまち兼相談室ぽぽ) 宮島 友紀(相談支援事業所 一条) が日程ごとに担当
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	170 分
○	7 到達目標	本研修における事例検討の進め方、および対象者理解におけるポイントを理解する
○	8 教科の概要	・相談支援の質向上と事例検討の必要性について考える ・本研修の事例検討の進め方と4つの視点「対象者理解」「個別相談支援」「チームアプローチ」「コミュニティワーク」を理解する
○	9 授業方法	講義と演習
○	10 授業計画	1.ねらい説明～講義 (30 分) ①事例検討の目的と必要性 ②本研修での事例検討の進め方、ルール 2.演習用事例を用いた事例検討の進め方の体験(140 分) 事例検討の各手順における留意点とポイントを抑える。 事例理解のための質疑応答を模擬的に体験する。
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習3 グループ事例検討
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・個別相談支援とケアマネジメント (180 分) ・相談援助に求められるチームアプローチ(多職種連携) (180 分) ・地域をつくる相談支援(コミュニティワーク)の実践 (150 分)
○	3 関連する研修目標	(2) 自身の個別の相談支援実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。 (3) 自身のチームアプローチ(多職種連携)の実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。 (4) 自身の地域をつくる相談支援(コミュニティワーク)の実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。
○	4 担当講師名	(演習2と同様)
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	510 分
○	7 到達目標	自身の相談支援実践について振り返り、維持・向上すべきことに気付く
○	8 教科の概要	・本人を中心とした個別の相談支援の実践を振り返る ・支援チームの関係性と各々に求められる役割を振り返る ・地域をつくる相談支援の実践を振り返る
○	9 授業方法	受講者事例による事例検討
○	10 授業計画	1. 手順説明 10 分 2. 受講者事例による事例検討① 90 分 ①事例の概要把握 15 分 ②事例の全体像把握(対象者理解のための質疑応答) 45 分 ③アセスメントの要約 15 分 ④手立ての検討 10 分 ⑤まとめと感想 5 分 2. 事例検討①のまとめ 5 分 3. 手順の再確認 15 分 4. 事例検討②～⑤ 360 分 5. 事例検討で明らかになった課題を解決するために、個人ワークでインターバル期間中に取り組む実習計画の素案を考え、グループ内で共有する 30 分
	11 準備学習	実習課題 I サービス等利用計画作成事例
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習4 インターバル報告
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・個別相談支援とケアマネジメント（70分） ・相談援助に求められるチームアプローチ（多職種連携）（60分） ・地域をつくる相談支援（コミュニティワーク）の実践（115分）
○	3 関連する研修目標	(2) 自身の個別の相談支援実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。 (3) 自身のチームアプローチ（多職種連携）の実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。 (4) 自身の地域をつくる相談支援（コミュニティワーク）の実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。
○	4 担当講師名	（演習2と同様）
○	5 担当講師略歴	（募集要領参照）
○	6 時間数	245分
○	7 到達目標	・個別の相談支援の実践例を振り返り、検討することで個別相談支援の能力の向上を図る。 ・他の多様な職種に対する理解・尊重に基づいてチームを組織し、円滑に機能させるための技術の向上を図る。 ・地域を作る相談支援の実践例を活用し検討することで地域援助の能力を獲得する。
○	8 教科の概要	・インターバル期間中の取り組みについて報告し、実践例の支援経過についての自己評価をグループメンバーと共有する ・グループメンバーの多様な実践から地域づくりのヒントを探る
○	9 授業方法	グループワーク形式
○	10 授業計画	1.ねらい、手順説明（15分） 2.インターバル報告書に基づく報告と意見交換×5事例（230分） 報告手順 ①事例検討の内容確認とインターバルでの取り組み内容の報告 ②相談支援専門員としてのかかわりについての意見交換 ③まとめと感想
	11 準備学習	実習課題Ⅱ インターバル報告書
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習5 研修の総括
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談援助に求められるチームアプローチ(多職種連携) (30分) ・地域をつくる相談支援(コミュニティワーク)の実践 (65分)
○	3 関連する研修目標	(2)自身の個別の相談支援実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。 (3)自身のチームアプローチ(多職種連携)の実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。 (4)自身の地域をつくる相談支援(コミュニティワーク)の実践について振り返り、維持・向上すべき点を理解すること。
○	4 担当講師名	(演習2と同様)
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	95分
○	7 到達目標	研修の気づき、学びを言語化し、今後の実践における目標設定を行う
○	8 教科の概要	・研修全プログラムを通じて気づいたこと、学んだことを整理する ・学びや気づきから、今後の実践に活かしたいことを、端的に表現してみる
○	9 授業方法	グループワーク形式
○	10 授業計画	1.ねらい、手順説明(5分) 2.実務での課題等についての情報交換(35分) 3.研修の振り返り(個人作業とグループ共有)(20分) 4.今後の目標設定(個人作業とグループ共有)(20分) 5.まとめ(15分)
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	